みんなで止める！玄海原発

【そいぎ】佐賀弁。それでは、という意味。そしたら。それじゃあ。

そいぎ

2012.1.20（金） No.2

¥100

■発行者
玄海原発プルサーマル裁判を支える会
会長　澤山保太郎
■発行所
〒840-0844　佐賀県佐賀市伊勢町2-14
TEL:0952-37-9212　FAX:0952-37-9213
saiban.jimukyoku@gmail.com
玄海原発プルサーマル裁判の会ホームページ
http://genkai.ptu.jp/

Stop it together! The Genkai Nuclear Power Plant
People's Action Against The Genkai Mox Project

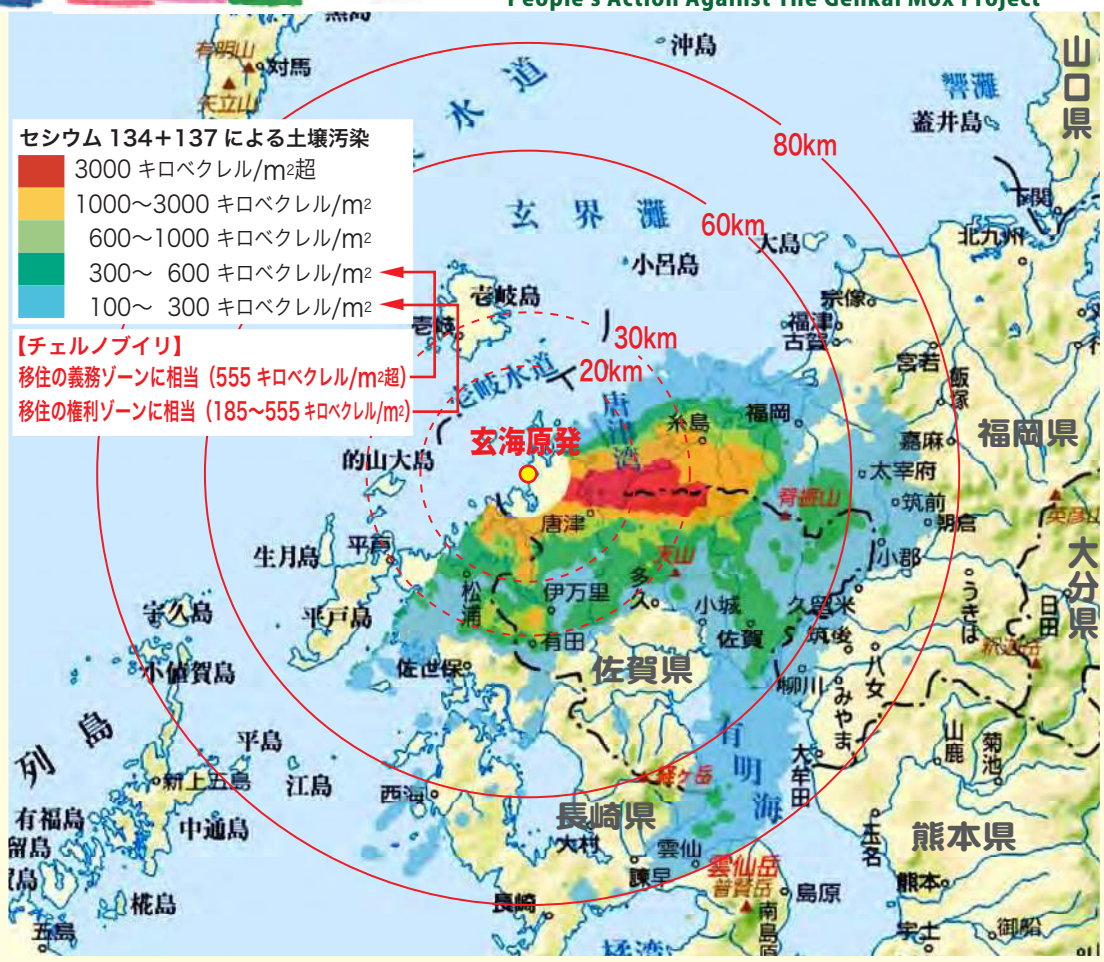
第4回公判の日、佐賀地裁前。前列左より於保事務局長、武村二三夫弁護士（後列）、石丸代表、澤山支える会会長（2011.10.21）

命のために　子ども達の未来のために

みんなの力で玄海原発すべて止めよう！

2010年8月9日、まずはプルサーマルを止めようと、私たちは九州電力を被告としてMOX燃料の危険性を訴える裁判をおこしました。しかし、3・11福島原発事故発生。原発の凶暴さが現実のものとなったことを受け、原発の再稼働をさせないために法廷内外で行動を続けてきました。そして、2011年12月27日、福島からの避難者をはじめ全国の仲間とともに、「玄海原発1～4号機すべてを止める！」と佐賀地方裁判所に追加提訴しました。

命を守るため、子どもを守るために、玄海原発、そして全国、全世界の原発をみんなの力で止めましょう！



玄海原発を中心に福島原発事故による土壌汚染図との重ね合わせ

チェルノブイリでは「移住の義務ゾーン」は強制移住、「移住の権利ゾーン」は移転保障、アパートや医療サービスの提供がされる。福島事故と同じような事故が玄海原発で起きたら、佐賀市、福岡市をはじめ広範な地域で人が住めなくなる。

※文科省と米国エネルギー省の第三次航空モニタリングより玄海原発プルサーマル裁判の会が作成　　協力：美浜の会

原発さえなければ

玄海原発プルサーマル裁判の会
代表　石丸 初美

闘いの始まり

2006年2月7日、古川康・佐賀県知事によるプルサーマル「安全宣言」が唐突に新聞一面トップに出ました。私の反原発運動は、その時からです。

それまで毎日子育てと仕事で精一杯、新聞を読む余裕もなく、慌しい毎日。子どもの健康を考えて作っていた私流料理も「美味しいー」と喜んで食べてくれた。一日の疲れも吹き飛んだ。皆、社会人となった今、幼い時の家庭料理がもどき料理とわかり、「食べ物の話」は兄妹で笑い話になっています。

そんな4人の子のお陰で、30～40代の子育てと仕事で大変な時も頑張れた。06年は、子ども達もそれぞれ自立、自由になれた頃でした。「子どもは3歳までに一生分の親孝行をする」と聞いていました。子育て中は出口が待ち遠しく、しかし出口に出てからこの言葉にうなずけました。

そんな子ども達の未来が酷いことになろうと知った時、愕然としました。当時古川知事は「プルサーマルは慎重に」と言い続け、県民の立場に立って判断してくれるものと思っていた人も少なくないと思います。

ところが06年2月、知事は県民を裏切りました。そして子ども達を守る市民の闘いが始まったのです。

いち早く危機感を覚えた主婦10人が立ち上がってくれました。05年秋、佐賀市長選挙演説会場で、高校の恩師と偶然に卒業以来の再会。恩師もその中の一人でした。10人主催の勉強会に私も参加。原発とは？プルサーマルとは？と初めて聞くことばかりでした。

①原発は原爆と同じ。プルサーマルは長崎原爆の材料と同じプルトニウムを使用。
②原発の核のゴミは処理方策が決められていない。
③プルサーマルは科学者間で意見が真っ向から対立。
④原発の稼働の是非は、実質、佐賀県知事と地元玄海町長の二人だけの判断による。
⑤原発を過疎地に作る訳は、人口密集地には作れないと法律で定められている。
⑥被曝労働者なしでは原発は動かない。

このような話で安心安全な国と思っていた私は、身も凍るような思いがしました。

プルサーマル住民投票

そして06年3月26日、日曜日に二階経済産業大臣が来佐。古川知事は私達の声を無視して、「住民の理解は得られた」と事前了解を強行しました。全ては経済優先。「お金と命はどちらが大切ですか？」答えはひとつ、誰でもわかること。難しい原発の理屈はいらないのです。私達は、何度も議論し住民投票を決意しました。

期間は、06年10月3日から2ヶ月間。県内各地に出かけて座談会を開き、署名活動を進めました。県民投票条例制定を求める49609筆（法定数14000）の署名を県議会に提出、しかし翌年2月臨時県議会であっけなく否決。理由は、「住民投票は議会の存在を否定する」「間接民主主義からの逸脱」「プルサーマルは議会が慎重に審議し判断する、県民では総合的な影響を評価できない」県民には判断できないということです。

私達は、会を改め、「プルサーマルと佐賀県の100年を考える会」として運動を継続。県知事、玄海町、九電に要望・質問書を出し続けました。九電は「企業機密」、県と玄海町は「国が安全と言っているから」が答え。また全国の人と一緒に参加した国交渉での国の答えは「万が一の事故の責任は電力会社にある。九電に安全に作業をやるよう指導しているだけ」。驚きでした。

プルサーマル裁判へ

09年12月2日、玄海3号機で日本初のプルサーマルが強行され、危険性は現実的になり、大きな挑戦を強いられました。有志で全国の協力も得、やむにやまれず運動の延長線上の裁判を決意しました。

10年8月9日、プルトニウム混合（MOX）燃料の使用差止めを求めて、原告130人で提訴。

そして11年3月11日。奇しくも、3・11の東日本大地震は、第2回公判の入廷中のことでした。

7月7日、九電、県の不穏な動きを察して、2・3号機の再稼働差止め仮処分の請求も急遽提出。前後して、佐賀県知事のやらせメール発覚。これは、日本中の原発政策のもたれあいを暴露するものです。

10月、4号機は「人的ミス」で自動停止、そして、11月1日、何の説明もないまま再稼働。1号機の老朽化・脆性劣化の問題。12月9日、3号機の放射能汚染水漏れ事故。次々起こる佐賀の状況に右往左往、皆、忙殺の日々を過ごしています。

玄海原発全てを止めよう

福島では、大勢の労働者が毎日被曝を覚悟で復旧作業を強いられています。国は、平和利用という言葉で、原発安全神話から放射能安心神話に進化させ、今もなお国民を騙し続けています。3・11後の国交渉でも、国は「頑張るだけ頑張る」が答えです。「国民の命より経済」、酷い国です。

私達はプルサーマルの危険性を知り、原発そのものも止めて欲しいと思ってきましたが、「原発反対」という運動に世間の理解が当時はまだまだ少なかったのです。しかし、状況は変わりました。そこで、2011年12月27日、玄海原子力発電所4基全ての運転差止めを求めて、佐賀地裁に新たに提訴したのです。原告は全国から160名が新たに加わり、22都道府県から290名の原告団となりました。心強い限りです。

福島から学ぶということ

福島から避難した方から「佐賀は蛇口の水がそのまま飲めていいですよ」と言われ、水が飲める？水・空気・大地の自然がどれだけありがたいことか、私は今まで何もわかっていなかったと気がつきました。

福島の大きな犠牲を学ぶということは、原発を止めること以外にありません。福島の人達に心を寄せて、子ども達の笑顔がいつの時代も続くように、核のゴミをこれ以上増やさないためにも、「原発いらない」と訴えていきたいと思います。

佐賀は、原発さえなければとってもいいところです。原発立地の住民はそう言いたいと思います。みんなで原発を止めましょう！

市民訴訟・みんなで止める！玄海原発　訴えのポイント

❶福島第一原発事故で長期の全交流電源喪失が想定されていなかったことが明らかになり、国の指針に間違いがあったと安全委員会委員長が認めている。現在指針の見直しがされており、新しい指針に適合していない限り運転は認められない。
❷津波の前の地震動によって配管が損傷し、それが今回の事故につながった可能性が高い。緊急安全対策は津波の影響のみを考慮したものであり、配管の損傷の検証をするべきである。実際に配管が損傷していれば、机上のストレステストは意味をなさないことになる。
❸1号機は、中性子による脆性劣化が進んでいて原子炉容器の破断の可能性がある。
❹安全性が保障されない原発を運転させるということは、いつなんどき重大事故を起こしかねず、原告・住民の生命・身体ならびに財産に対して深刻な被害を与える可能性が高い。いったん事故が起きてしまえば、放射能の汚染は世界へ広がり、また何世代にもわたって人類への被害をもたらす。
❺よって、わが国のすべての原発は欠陥を有しており、玄海原発1～4号機すべての運転は差し止められるべきである。

※3号機MOX燃料差止の裁判と、2・3号機再稼働差止仮処分命令申立も継続しています。

玄海の全機差止めを求めた提訴後の会見。冠木克彦弁護士（右から2人目）、特別補佐人の小山英之さん（右端）（2011.12.27）

福島原発事故の真相と原子力発電所

松原 学

2011 年 3 月 11 日、不思議な地震が東北地方で起こりました。

気象庁の会見によると大きな地震が短時間に複数回起こり、その結果、長時間大地が揺れました。

地震によって、大津波が発生し、東北太平洋沿岸に甚大な被害が及びました。

しかし、最大の悲劇は福島第一原発の核燃料を冷却する能力が失われたことでした。地震大国日本に原発を作るからには、どんな地震や津波があっても、安全に停止できると誰もが信じていました。

冷却能力が失われ、必死の冷却作業にもかかわらず、大量の核物質が自然界にばらまかれました。

その結果、広範囲に渡って高濃度の放射能汚染地域ができてしまい、多くの住民がそこから退去を余儀なくされました。

さらに言えば、津波被害の迅速な救助、復旧を未だに阻んでいるものが原子力発電所の事故であり、放射能汚染です。これは人災です。

事故を起こしていながら、放射能汚染により、原子力発電所の内部の状況がどうなっているのか、事故から 10 ヶ月が経つにもかかわらず、未だに事故の真相は明らかになっていません。

放射性物質は、目に目えず、匂いもせず、私たち五感では感じることができません。

その特徴と言えば、じゃがいもに放射線を当てると芽が出ないということからわかるように、将来の命を奪うものです。春になって、新しい命の芽生えの季節を迎えても、芽を出すことのないじゃがいも。外見には、全く変化を見ることができません。ですが、芽吹くのに必要な「いのちの設計図」遺伝子が放射線によって破壊され、新たな命が芽生えられないのです。

アメリカの研究機関「放射線と公衆衛生に関するプロジェクト」(RPHP//Radiation and Public Health Project) が出した調査結果(次項参照)も、放射線の本質が「いのちの設計図」を破壊することだとわかれば、理解できるのではないでしょうか。

私たち一人ひとりは一個の受精細胞から始まります。その時に、放射線を浴びれば、次の細胞分裂は起こりえません。つまり、受精卵が細胞分裂しないことは、すなわち、将来の死を意味しています。成人は 60 兆の細胞があると言われています。その細胞の一つ一つに健全な遺伝子を育むことを阻害するのが放射能なのです。

最新の科学技術をもってしても、この放射能を消すことができません。

原子力発電所は放射性物質を新たに生み出し、自然界に拡散していく施設であり、私たちがいつくしむ「いのち」の対極にある施設なのです。

「原発さよなら署名」第1次集約 10 万 7985 筆を携え政府交渉(2011.7.29)

原子力発電所の閉鎖による健康回復 !! 九州では 2011.12.25 から！

松原 学

アメリカの研究機関「放射線と公衆衛生に関するプロジェクト」(RPHP) が 1987 年から 1997 年までに原子炉を閉鎖した全米 7 ヶ所の原子力発電所を対象に、半径 80Km 以内に居住する生後 1 歳までの乳児死亡率を閉鎖前と閉鎖 2 年後とで比べる調査を行った。その調査によると、原子力発電所が閉鎖された前後に乳児の死亡率が最大で 54.1% も減少した (1997 年に閉鎖されたミシガン州ビックロック・ポイント発電所周辺での調査結果)。全米での 1985 年から 1996 年までの乳児死亡率は平均で 6.4% の減少であったことから比較して、原子炉の影響が実証されたとしている。

別の言い方をすれば、原発の稼働によって失われた命があると言うことだ。

「健康には影響が無い」と言い続けられてきた原子力発電所。ごくごく微量でも放射性物質は、原子力発電所が稼働する限り、大気や海に放出され続け、幼い命まで奪っている事実が明らかになった。

この事実を私たちはどのくらいの人が知っているだろうか。

2011 年 12 月 25 日、九州電力・玄海原発 4 号機が停止した。この日をもって、6 機ある九州の原子力発電所はすべてが停止したのである。

35 年ぶりに放射性物質の拡散が止まる日となった。この日を境に九州は生まれ変わることができるはずである。

再び、原子力発電所からの放射性物質の拡散によって、幼い命、小さな命が絶たれることのないよう、『クリーン・アイランド・九州』をとり戻すため、原発の再稼働を阻止して、廃炉に持ち込む活動が重要になる。

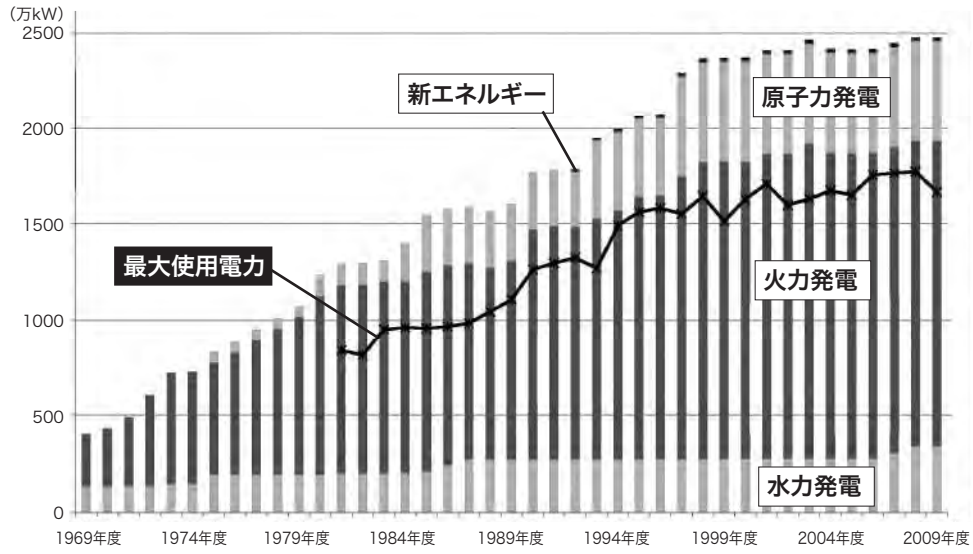
九州電力は「発電量の 4 割を原子力発電に頼っている九州では原発は必要」と言っているが、本当なのだろうか。電力発電能力と過去の最大電力使用量を比較したグラフを見て頂きたい。原発ができて 35 年、最大電力使用量を示す折れ線グラフは一度も、原発の領域に達してない。このことは、原発に依存しなくても電力は足りていると言うことではないだろうか。

原子力発電所が止まった今こそ、原発稼働を前提とした深夜電力料金制度などを見直して、一人ひとりがエネルギーを無駄遣いしない社会への転換が必要ではないか。ピーク電力の大幅カットも電力料金体系を工夫すれば十分可能だ。

自然豊かな九州は自然エネルギー・再生可能なエネルギーの宝庫でもある。その豊かなエネルギーを大切に賢く利用することが、「クリーン・アイランド・九州」の出発点であり、本当に「いのち」輝く未来への一歩ではないだろうか。

21 世紀は「いのちの世紀」。賢いエネルギーの使い方をして、命をむしばむ放射能におびえることのない暮らしを、一日も早く取り戻そう。未来の「いのち」を守るために脱原発から始めよう。

九州電力の発電能力と最大使用電力の推移(電力統計情報から作成)



九州版「原子力ムラ」

玄海町の財政と原発 武富 泰毅

原発が来れば、お金には困らない。町民はさておき、町レベルでは事実だ。玄海町の当初予算の 57 億円のうち、原発関係からのものは 7 割近くを占める。固定資産税 24 億、電源立地対策交付金 17 億円などだ。

平成の大合併で、唐津市近郊の郡部が新唐津市に合併するなか、玄海町が独自路線をとり続けられた背景にはこの財政力がある。

町独自の小学生以下の医療費無料など、手厚い福祉政策や町の規模とは不釣り合いなハコモノも原発からの「恩恵」であることは間違いない。

しかし、固定資産税は当然毎年、減少していく。そのために、新しい原発が必要になる。今回、事故を起こした福島を含め、多くの「原発銀座」は、この負のスパイラルの中で、次々と新規増設されていった経緯がある。

電源交付金についても本年度から稼働していなければもらえなくなった。町の外側から見れば、「なぜ、今、稼働を急ぐのか」という当然の疑問が挙がるが、「早く稼働させないと町の財政がもたない」のである。

使用済み核燃料の中間貯蔵施設の誘致の話もある。建設時点で 5 億、毎年 6 億の収入が見込まれる。浮上しては、消え、また浮上して消えている計画だが、これに対しても根強い期待がある。普通はそれが「核のゴミ捨て場」と呼ばれる施設であるにもかかわらずだ。

また、町財政だけではなく、町の産業も多かれ少なかれ原発にかかわっており、小さい町の中では反対の声も挙げにくい。政治も地縁、血縁をベースにした選挙で行われるため、原発そのものが争点になりにくい。

通例、国が「地元」という場合、玄海町長と町議会、佐賀県知事と県議会が説得の対象である。大きくエネルギー政策を転換するためには、今の構造そのものを変化させる必要がある。玄海町の財政状況を今のままにしておけば、「再稼働やむなし」の声は「地元の意志」として挙がっていきかねない。

過疎の町を原発依存に追い込んだ国の開発政策を根本から見直させ、地域の自立をともに考えていきたい。玄海町で悲劇を生まないためにも。

第4回公判後のデモ、九電佐賀支店前(2011.10.27)

佐賀県知事と九電の親密な関係 永野 浩二

「やらせ」——中立を装って、県民を欺いた佐賀県知事。

プルサーマル運転を日本で初めて同意したのと同じように、3・11後の「原発再稼働」も一番乗りへまい進した。

住民の生命より、国策に忠実な姿勢が、またもや繰り返された。国、佐賀県、九州電力のカネをめぐるズブズブな関係も次々に明らかになっている。

原発立地自治体には「迷惑料」として電源三法交付金が国から支給される。佐賀県には今年度、電源立地地域対策交付金約 37 億円、核燃料サイクル交付金(プルサーマル受け入れの見返り) 約 14 億円、核燃料税約 20 億円などが交付された。

交付金の使途はかつてはハコモノだけだったが、今はソフト事業にも使われるようになった。最近の使途では、シンクロトロン光研究センター (鳥栖市。施設整備費 66 億円のうち約半分が電源交付金) の施設管理、教育用コンピュータ整備、道路補修、保育所運営費等々と多岐にわたる。他の補助金や交付金が削られる中、自治体にとって「使い勝手のよい」交付金となっている。

玄海 1 号機の安全性についての佐賀県交渉(2011.11.25)

さらに交付金とは別に、プルサーマルの始まった 2009 年以降、九電は佐賀県関連の事業に対して少なくとも約 65 億円を寄付している。唐津市に新設の早稲田大学系中高一貫校に 20 億円、唐津市の再開発ビルに 5 億円、鳥栖市に新設の「九州国際重粒子線がん治療センター」に 40 億円、などである。

「がん治療センター」誘致は知事選でのマニフェストに掲げていたものだ。また知事は九電幹部から政治献金を毎年受け取り、選挙でも九電関係者から支援を受けてきた。九電幹部をわざわざ知事公舎に呼んで、再稼働のための事細かな指示を出したのも、これまでの親密な関係からいえば当然のことだったのだろう。

国の交付金も九電の寄付金も、出所は国民の税金、電気使用料である。カネにたかる一部の人々と、原発＝「潜在的な核兵器」を何が何でも維持したい人々のために、私達はなぜ危険な目にさらされなければならないのか。国レベルでも、地方レベルでも、このカネでつながる原子力ムラを解体させなければならない。

特に危険な玄海１号機と３号機

１号機の老朽化・脆性劣化と、３号機プルサーマル運転

豊島 耕一

どんな原発も莫大な放射能を内蔵しており危険ですが、玄海原発では特に１号機と３号機が心配です。運転開始から 36 年経つ１号機は原子炉の器である圧力容器が老朽化していて、鋼鉄の強度が落ち、ワレモノに近づいています。昨年 12 月の定期点検のための停止も、慎重に止めなければいけないと非常に心配されました。そして３号機は、本来ウラン燃料を「燃やす」よう設計された炉にプルトニウム燃料を部分的に加えるという「プルサーマル運転」をしていました。

１号機の老朽化は、長い間「中性子」という粒子の照射を受けたためです。この中性子は核分裂反応を持続させるためになくてはならないものですが、この粒子は原子炉の器である鋼鉄の壁も強くたたきます。その結果、鋼鉄の原子の並びが乱れ、ワレモノに近づくのです。これは「脆性遷移温度」という数字で評価されます。どんな物質（固体）でも温度が高いときは力が加わっても割れたりせず、壊れる前に曲がるなどして粘りを示します。しかし温度が下がると脆くなり、一気に割れてしまいます。このように性質が変化する境目の温度を「脆性遷移温度」と言います。例えば、板チョコならこの温度は 25℃ぐらいでしょうか。

ところが玄海 1 号機の原子炉容器では、これを調べるために炉内に置かれた容器と同じ材質のサンプルが 98℃という高い値となっているのです。九電は容器そのものは 80℃だと言っていますが、これにしても非常に高い数字です。新品の容器ではマイナス 16℃なのです。チョコレートよりも高い温度でも割れやすいものが金属（鉄）と言えるのでしょうか？

高温でも割れやすいという性質は、福島原発の事故のように、緊急に原子炉を冷やさなければならないときに深刻です。なぜなら急に冷たい水を原子炉に入れると、原子炉が割れてしまうかも知れないからです。熱湯消毒した熱いままのコップに水を入れることを想像して下さい。原子炉が割れてしまえば、周りにまき散らされる放射能の量は福島の比ではありません。せっかく定期検査で止まったのですから、このまま廃炉とすべきではないでしょうか。

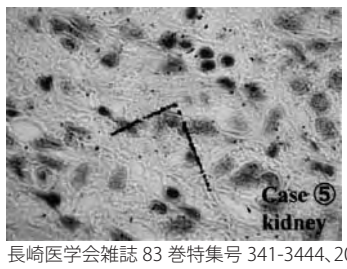
これも停止中の３号機では、日本で初めて、プルトニウム燃料（MOX 燃料）を混ぜて運転する「プルサーマル」が実施されていました。本来ウランを燃やすように設計された原子炉で MOX 燃料を使うことは、いろんな点で安全性のための余裕をなくします。

まず、プルトニウムがウランより重い原子であることから、出来る放射能にはアルファ線を出すものが多くなります。このため燃料棒の中にヘリウムガスがたまりやすくなり（アルファ線は止まればヘリウム）、燃料棒の内圧を高めます。もし高くなりすぎて燃料と燃料棒の鞘とのあいだに隙間が出来ると大変です。熱が十分に周りの水に伝わらず燃料が溶けてしまうかも知れません（これは追加提訴前の本裁判の会の技術的な中心論点です）。また、アルファ線を出す放射能が多いと言うことは、使用済み燃料を大変扱いにくくします。なぜならアルファ線は「内部被曝」の場合、最も恐ろしい放射線だからです。したがって万一の事故の際の放射能もより悪質になります。【写真】

このほか、ウランより核分裂がしやすいため炉内での「燃え方」が不均一になり原子炉の制御が複雑になる、MOX 燃料のまわりでは「速い中性子」が多くなるため制御棒の効き方が悪くなる、燃料の融点がわずかながら低くなるなど、安全の余裕度を少なくする傾向があります。

しかし、たとえ事故が防げたとしても、「MOX 燃料を使う」というだけで環境に大量の放射能をまき散らすことになります。それは、MOX 燃料は使用済みウラン燃料を切り刻み、酸で溶かすなどして、ウランとプルトニウムを取り出すという「再処理」の工程が不可欠だからです。この工程で放射能を出さずにすますことは出来ません。その工場は青森県の六ヶ所村に建設されましたが、建設時の申請書には、いろんな種類の放射能の年間放出量の「予定」が書いてあります。【表】特に目立つのはクリプトン 85 という放射性ガスです。もしこの事業所が通常運転をすると（現在トラブルで停止中）、チェルノブイリ事故で放出された量の 10 倍の量を毎年出す見込みであると書かれています。この放射性ガスの大気中濃度は年々上昇しています。

もちろん放出される放射能はクリプトンだけではありません。これより量は少ないもの の、農作物や水産物に入り込みやすいものが沢山あります。実際、青森県は、この事業所が運転されれば同県の農産物から放射能が検出されることを予想しています。放射能による環境汚染は福島原発事故によるものだけでもこりごりではないでしょうか。



【写真】
七條和子・長崎大学助教らが、細胞中で放射線が走った跡を黒い線として撮影することに成功。長崎被爆者が体内にとりこんだ「死の灰」＝プルトニウムは、保存された組織標本の中で今なおアルファ線を出し続けている。

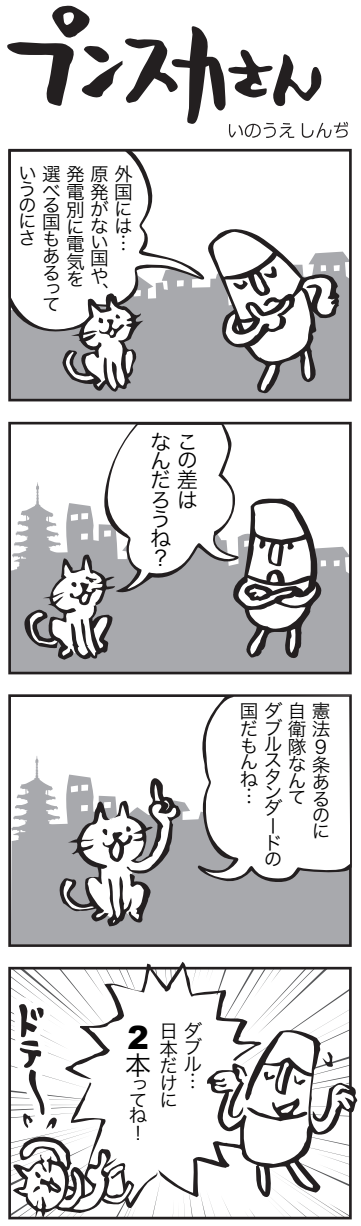
長崎医学会雑誌 83 巻特集号 341-3444、2008

【表】六ヶ所事業所再処理事業指定申請書添付書類より作成

第 4.2-1 表　大気への放射性物質の推定年間放出量

核　　種	放射性物質の推定年間放出量(ベクレル / 年)
Kr－ 85（クリプトン）	約 3.3×10^{17}
H － 3（トリチウム）	約 2.0×10^{15}
C － 14（炭素）	約 5.2×10^{13}
I －129（ヨウ素）	約 1.3×10^{10}
I －131（ヨウ素）	約 5.6×10^{10}
そ　の　他	約 1.2×10^{11}

（注）その他核種のうち，
アルファ線を放出する核種　約 3.7×10^{8}（ベクレル/年）
アルファ線を放出しない核種　約 1.2×10^{11}（ベクレル/年）



環境にやさしい発電方法の紹介

玄海原発プルサーマル裁判の会事務局長　於保 泰正

原発がなくても電気はつくれます。
廃材やゴミなどから得られた有機物をエネルギー源として利用するバイオマス発電。
世界の主流になってきている、液化天然ガス（LNG）によるコンバインドサイクル発電。燃料供給が安定している、CO_2排出が少ない、6割の熱効率があるなどの利点があります。
ここでは大分県の 3 施設を紹介します。実際にこれらの発電所を見てみるとなぜ原子力発電に頼るのか全くおかしいと実感します。ぜひ見学してみてください！！

九州電力新大分発電所

●木質チップによる発電
【（株）日田ウッドパワー】

日田にある（株）日田ウッドパワーは、「特定規模電気事業者」として建設廃材、製材端材を燃料にして 2006 年から発電しています。約 45 気圧、450 度の蒸気でタービンを回し発電効率 27%を達成しています。出力１万２千 KW。春、秋にそれぞれ２週間維持管理を行い、11 カ月、昼夜８千時間運転しています。

特　徴

①ゴミとして処理していた廃材を再資源化し、利活用するバイオマス発電。

②カーボンニュートラル　バイオマスの炭素は、元々大気中の CO_2 を植物が光合成により固定したものなので、燃焼等により CO_2 が発生しても、実質的に大気中の CO_2 を増加させない。

③従業員 18 名中 15 名を地元採用していて雇用に繋がる。

④復水器（タービンを回転させた後の蒸気を水に戻すための装置）は、大きな扇風機で冷やされている（空冷）ので海のそばでなく、陸地に建設できる。

●メタンガスによる発電
【日田市バイオマス資源化センター】

2006 年に供用開始したセンターは、生ごみ、豚ふん尿、農業集落排水汚泥を受け入れ、メタン発酵させてメタンを燃料としてガスエンジンを動かし、電気と廃熱を利用、余剰汚泥から堆肥を作り、農地に還元する「循環型」の施設です。

日田市バイオマス資源化センター

（株）日田ウッドパワー

特　徴

①ゴミ処理コストの削減（家庭系ゴミの 40%が生ゴミ）

②埋め立て処分場の延命

③焼却処理に伴う化石燃料の削減

④豚ふん尿は処理が難しく地下水、河川の汚濁源となっていた

⑤家畜排せつ物法の施行により、農家での個別処理設備費の負担が重くなった。センターは、④、⑤の解決になる。

⑥メタンで発電した電気は施設で利用し、余剰電力は、売電（約 400 万円）している。

⑦ガスエンジンからの排熱は、温水として施設で利用している。またメタン発酵槽を 35 度～38 度に温めて、年間安定したガス発生量を維持している。

⑧液肥は無料、たい肥は 10kg50 円の有料で農地に還元できる。循環型のまちづくりに貢献している。

●液化天然ガス（LNG）による複合発電（コンバインドサイクル発電）
【九州電力新大分発電所】

九電の新大分発電所は、1991 年に１号系列が、1998 年に３号系も運転を開始。発電能力は２２９.３万 kW と九州最大の火力発電所です。発電方法は、まずガスを燃やしてガスタービンを回し、さらに余熱を利用した蒸気で蒸気タービンを回します。

特　徴

①高い熱効率で、１号機が４３%、最新のものは６０%近いと言われている。その分温排水量は従来火力の６割程度の排出で済む。

②起動停止が短時間なために、深夜帯等で止める出力調整が容易。燃料の節約になる。

③排煙の窒素酸化物を脱硝装置で窒素と水にしてクリーンに排出する。

④場所さえあれば半年ほどで建設できる。既存施設でも、水蒸気タービンの頭にガスタービンを取りつける改造を行えば出力の増強を図ることができる。ガス協会の試算では旧式火力発電所の 3 割を改善するだけで 2000 万 kW 以上生まれる。

九州はまだ、間に合います

阿部 恵

10月、福島市内の自宅に一時帰宅してきました。放射線管理区域が0.6マイクロシーベルト毎時と言われているのに対し、私の自宅の庭は1.69マイクロシーベルト毎時(※)もあります。管理区域よりはるかに高い数値です。しかし恐ろしいことにこれでも私の自宅は福島市内では低い方なのです。このような超高濃度汚染地域と言われる場所に市民は普通に暮らしています。

たくさんの方がマスクもせずに外を歩いていて、マスクをしている人を探す方が難しいかもしれません。なぜたくさんの人々が被曝を強いられないとならないのか、なぜこんな状態でも国は危険だと言ってくれないのか、子どもだけでも避難をするよう促してくれないのか、悔しくて悔しくて、悲しくて苦しくて胸が張り裂けそうで涙があふれそうです。

私自身もどうしてこんなつらい思いをしなくてはならないのでしょう。私は3・11前に戻りたい。平穏な日々を返してほしい。もう叶うことのない願いですね。

私達のような苦しみを味わうことのないようにするためにも、原発の危険性を知ってください。九州の皆さんは、まだ間に合います。

フクシマに耳を傾け、玄海原発と照らし合わせ考えてみてください。そして、なんらかの方法で行動を起こしてみてください。一人ひとりの力が大きなものとなり、明るい未来に向かっていくことでしょう。

かけがえのない空気や大地、かけがえのない人を守るため共に頑張りましょう！

（福島市から福岡県へ母子避難中）

※GMlogタイプによる

「佐賀から変えよう、ここから変えよう！」9・11佐賀行動デモ（2011年）←

わたしたちの活動の軌跡　2004〜2011

年	月	日	活動内容
2004	4	28	九電、玄海原発3号機でのプルサーマル実施を表明
2005	12	25	佐賀県主催「公開討論会」（2011年、やらせ・仕込みが発覚）
2006	3	26	古川・佐賀県知事、プルサーマル事前了解
	10.3〜12.3		県民投票条例制定請求署名活動、翌年2月佐賀県議会は否決
2007	2	2	県民投票の会を改め「プルサーマルと佐賀県の100年を考える会」発足
	7	16	**〈新潟中越沖地震発生〉**
2009	5	23	MOX燃料の玄海原発搬入
	12	2	プルサーマル営業運転開始
2010	2	21	「玄海原発プルサーマル裁判の会」発足
	8	9	3号機MOX燃料差止請求、佐賀地裁提訴（原告130人）
	12	1	MOX燃料差止請求第1回公判
	12	9	3号機ヨウ素もれ事故
2011	3	11	MOX燃料差止請求第2回公判 **〈東日本大震災・福島原発事故発生〉**
	6	26	再稼働へ向けた国主催「住民説明会」（7月6日やらせ発覚）
	7	7	玄海2・3号機再稼働差止仮処分申立て
	7	8	「市民でつくる玄海原発 説明会」開催、多久では県による説明会開催
	7	22	MOX燃料差止請求第3回公判＆2・3号機再稼働差止仮処
			分審尋、裁判の会事務所開き
	9	11	脱原発佐賀行動・デモ行進
	10	21	MOX燃料差止請求第4回公判＆2・3号機再稼働差止仮処
			分審尋、デモ行進
	11	2	玄海4号機運転再開抗議・全国6ヶ所同時行動
	11	25	『あれから2年、さよならプルサーマル12・2緊急佐賀行動』、デモ行進
	12	19	運転再開に反対する政府交渉（7名参加）
	12	27	玄海原発全炉停止請求、佐賀地裁に追加提訴（160人が新たに原告に加わり、合計22都道府県290人の原告）

原発を止めるために私に何ができますか？

原発はもういやだ！でもなにをしたらいいかわからない…一人でやるのもなんだかなあ…というあなた。まずはこんなことからはじめてみよう！　いのうえあっこ

おしゃべりが好きだ

- ●友達、家族と一緒にお茶飲みながら座談会してみよう
- ●わからないことは電話して聞いてみよう！言いたいことは言おう
- ●話して、感じて、勉強して、また話して、どんどん広げよう
- ●署名を書いてもらおう

手紙を書いたりメールするのは苦にならないよ

- ●自分の意見をFAXやメールで送ってみよう

こんなこと。

※武雄市のガレキ受入れ問題では「放射能を拡散してはダメ」というみんなの声が、受入れを止めたよ。

※佐賀県知事が「やらせメール」を九電に呼びかけたのも、市民が「再稼働反対」の声をたくさんあげたのを恐れたから！

パソコン・スマホならまかせて！

- ●ツイッターやfacebookで情報を拡散しよう

こんなこと。

※全国に仲間が増えて、情報共有できて、連帯の力がどんどん広がる

※玄海4号機運転再開抗議では一夜で全国から1万筆近い署名を集めたよ。すごいネ

いろんな所に行くのが好きだよ

- ●仲間ができたらみんなで意見を書いて、九電や佐賀県庁、地元の議員に持っていこう
- ●裁判の会が要望を出したり抗議する時について行こうかな

こんなこと。

※子どもの学校給食が心配。みんなで教育委員会に要望に行こう

※政府交渉に行けば、誰が決めて動かしてるのかこの目でわかるよ！アメ玉しゃぶって肘をついて市民の話を聞く役人なんかがいたりして。

※政府や県にまかせてもだめ、自分が動かなければ何も変わらないってわかるよ

歌うの大好き、楽器もできる！

- ●デモや集会で、歌いながら、楽器演奏しながら、練り歩いて市民にアピール！デモデビューしない？けっこうハマる！
- ●同じ価値観の人と出会えるよ
- ●元気もらえるよ！1人じゃないってね。楽ではないけど、楽しくできることもあるよね。

イラスト描くのが好き！

- ●チラシ、ポスターで多くの人の目を惹こう自分発信のチラシをつくろう
- ●横断幕とか缶バッジとか、オリジナル脱原発グッズをつくっちゃおう！

あなたもつくってみない！？

事務はまかせて！

- ●入力作業、ビラ配布、やればやるほど、運動が進むよ

★福島で起きたことが、自分のまちで起きたらって想像してみよう。子どもや自分の大切な人を守りたい—それが出発点。

★原発、こうしたら止められるんじゃない？！と考えるといろいろあるよね。何ができるかは十人十色。自分の頭で考えて、自分の力を発揮して、やれることをやってみる！

★一人ひとりは微力だけど、無力ではないよね。みんなの力が集まったら、大きな力になる！

★誰かがやってくれるんじゃない。自分の未来は自分でつくるんだ！

石丸です。どこへでも呼んでね。すぐ行くよ！

2012年、今年こそ止めて脱原発元年にしよう！みんなで一緒に！

今日この頃

玄海原発プルサーマル裁判を支える会会長　澤山 保太郎

町長をやめてから自分が作った㈱リ・ボルト社で働いている。

私は、50人ぐらいの社員の差配と各種業務の指揮監督をしているが、特別任務としては夜勤であり、それで日給5000円ほど頂く。年中無休である。

朝5時すぎに起床し夜12時ごろ就寝するまで、ほとんど間断なく毎日働く。

散歩したりスポーツをしたりする時間が全然なくなった。読書の時間というものもない。

しかし、仕事の合間に本や新聞は読む。この頃の本は宮城谷昌光を耽読している。

この人の著作物では、間を置いていると前後がわからなくなる。登場人物が大勢であるからストーリーを忘れてしまいかねない。すごい小説家が現れたものだ。

ホテルの飯炊きもやっている。普通の白いご飯と玄米ご飯を毎朝薪で焚いている。

薪だきご飯に替えたら、お客さんのご飯の食べる量が2倍になった。工事関係で泊まる客が多いので、パンよりもしっかりご飯を食べたいという事であろう。

薪だきはおいしさが断然違うのであって銀シャリと言えるご飯となる。

薪は浜辺の流木がご飯だきには最適だ。たきつけには松葉がいい。松並木沿いの道路の清掃を兼ねて落ち葉松をかき集めている。

近くの徳島の浜辺にたくさんの流木があがっていて、見渡す限りの流木であった。これでは十年ぐらいは焚き物に不自由はしないな、とほくそ笑んでいた。

先日その浜辺に行ったら、流木は跡形もなく、ところどころに黒い灰の山が残されていた。県が業者に頼んで全部焼却したということだ。何ということだ。

東北の被災地の積まれた廃材の山。東北の人も薪だきご飯に替えたらどうだろう。

ご飯はおいしく、電気やガスもいらず、廃材も処理できる。

日本国中の人が、昔ながらの薪で煮炊きすれば、原発1基や2基ぐらいの節約になるのではないか。薪木の源泉である山も生き返るだろう。しかし、それができるのも、廃材が放射能に汚染されていなければ、の話である。

私は高校生の時国木田独歩が好きであった。その小作品に「たき火」という短い詩のような文章があった。何故か私はこれが好きで何度も何度も声を出して読んだものである。

座って飯炊きの炉の火を見ていると、その詩篇が思い浮かび、私も昔の懐かしい生活がよみがえる。かまどの火を焚きご飯を作り、いろりの火を囲んで楽しく語り合った夜のことがちらちらとまぶたに浮かぶ。

電気やガス釜ではどうして美味しいご飯が出来ないのであろうか。どうして流木の薪だきご飯がこんなにおいしいのであろうか。九州電力など電力会社には説明できない。

■さわやま　やすたろう　高レベル放射性廃棄物最終処分場の受け入れ計画を拒否した元・高知県東洋町長。

編集後記

■汚染地図の玄海バージョンをつくるために福島の汚染地図を画像処理した。地図の詳細や汚染地域の地名を消す作業。町や村、地域の名前。田畑や高速道路のインター。これらひとつひとつの向こう側に、どれだけの悲しみと苦しみがあるのか。作業は一日だけど、この現実はまだ終わりが見えない。（大江登美子）

■代表からのメール「コツ道報告の原稿送るよ」。コツ道って？一瞬考えた。「活動報告」の間違い！「コツコツやってきた道のりの報告ですね」と返信しておいた。『活動の軌跡』はその凝縮版。すべての記事、すべての行間に、悲しみ怒り、そして連帯の喜びがつまってる。そんな“コツ道”をあなたも一緒に歩きませんか？（永野浩二）

●information

書籍・グッズのご案内

ご購入・お問い合わせは下記連絡先へお願いします

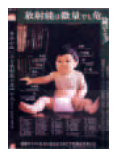
缶バッジ 各200円　原子力はもうけっこう！ぜひ缶バッジを身につけて抗議の意志表明をお願いします。

「もうけっこう缶バッジ」

「玄海原発プルサーマル裁判の会バッジ」水色、ピンク、緑

『まず漏らして、あとで修理』管理もされずモニターもされない原発配管からの放射能放出（ビヨンド・ニュークリア　レポート）
ポール・ガンター著　500円
【日本語訳・発行団体】
グリーン・アクション
玄海原発プルサーマル裁判の会
福島老朽原発を考える会
美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会

『原発について考えるためのリアルなヒント集』
蟻んこ組　編　500円



フライヤー・ポスター
『放射能は微量でも危険です』
核燃サイクル反対の意見広告を出す医療従事者の会　発行
フライヤー（A4）　20円
ポスター　500円

アヒンサーシリーズ
『未来に続くいのちのために原発はいらない』
PKO法『雑則』を広める会 編 各100円

第1号（緑）
大人の人に伝えたいこと　他

第2号（赤）
原発がどんなものか知って欲しい　他

第3号（黄）
被曝医師・肥田舜太郎さんの証言　他

『死に至る虚構
国家による低線量放射線の隠蔽』
肥田舜太郎他　訳　500円

出前講座いたします

原発のこと、放射能のこと、子どもを守るために何ができるの？などなど、なんでもざっくばらんに語り合いましょう！

ボランティア募集

私達は、何の後ろ盾もない市民です。仕事や家庭のことをしながら、運動の輪を広げるために、試行錯誤しながら活動しています。「もっとこうすればいいのでは？」あなたのアイデアをお待ちしています。
書類の印刷、発送作業、事務所整理などなど少しでもお手伝いをして頂ける方もどうぞお気軽に事務所へおこしください。

あなたのチカラが必要です！

ご支援お願いします

■玄海原発プルサーマル裁判を支える会年会費5000円
■サポート会員
1口1000円（何口でも）
■カンパも受け付けています。

銀行口座
親和銀行　佐賀中央支店
【口座名】
玄海原発プルサーマル裁判を支える会
【口座番号】3000204

ゆうちょ銀行
【記号番号】01790-3-136810
【口座名】
玄海原発プルサーマル裁判を支える会
他行よりお振込の場合
【店名】
一七九（イチナナキュウ）店（179）
【預金種目】当座**【口座番号】**0136810

ご意見・ご感想を！

「そいぎ」へのご意見・ご感想をお寄せください。

■入会・出前講座・ご意見などの連絡先
〒840-0844　佐賀県佐賀市伊勢町2-14
玄海原発プルサーマル裁判の会
TEL:0952-37-9212　FAX:0952-37-9213
saiban.jimukyoku@gmail.com

最新情報はホームページで
http://genkai.ptu.jp/